人権なら

● ひと・まち・生き活き

2025年11月1日

第179号

NPO 法人なら人権情報センター

12月7日に生き活き交流祭

様々な団体が実行委を結成して盛り上げ

第31回生き活き交流祭が12月７日に開催される。実行委員会形式で実施する。第1回実行委が9月24日、三宅町あざさ苑であった。

交流祭では様々な団体が模擬店の出店や、展示、催し物などを披露する。実行委は人権の視点で幼児から高齢者まで幅広い世代が楽しめる企画を考え、盛り上げを図る。

人がつながる やさしさとぬくもりあるまちへ！

交流祭のテーマは、様々な団体の思いを合わせた結果、「人がつながるやさしさとぬくもりあるまちへ！」とした。三宅町にとって今、一番大切なテーマではないかと感じる。

記念公演には、反戦平和への思いをつなげていくため、「トーク＆ライブ・三宅に響け平和コンサート」と銘打ち、平和への熱い思いを語り、歌い続けているシンガーソングライターの川口真由美さんを迎える。

三宅町における人権文化のシンボルに！

プログラムの内容は、地域の子どもたちによるダンス、ハワイの曲とともに踊るフラダンス、ひまわりによる太鼓演奏など、盛り沢山となっている。三宅町地域劇団「かいほう塾」による演劇もある。

実行委員会は、生き活き交流祭が三宅町の人権文化のシンボルになるよう、みんなで盛り上げていくことを確認。多くのみなさんが12月７日の生き活き交流祭に来て、楽しんでくれることを願っている。

国の責任を不問にはできない

ピープルファーストが「優生手術裁判」を報告

第1回三宅町人権講座が10月２日、町交流まちづくりセンターMiiMoであった。ピープルファーストのメンバーが優生手術裁判について報告した。

報告では、原告たちが強制された経過を映像を交えて説明。優生思想は難しい問題で、被害者の現実を学び、もっと声を上げていきたいと決意を述べた。

優生思想は「優等民族の血の純潔」を掲げ、障害者を「抹消されるべき劣った者」とする考え。ナチスは優生思想に基づき、20万人の障害者やロマを虐殺。ホロコーストへと突き進んだ。

優生保護法下で1万5千人が強制不妊手術

日本は戦後、「優生保護法」を制定。1996年まで継続した。記録に残るだけでも、1万5千人が強制不妊手術を施されている。

裁判は長年、「除斥期間」の壁に阻まれてきた。だが、2022年3月に大阪と東京高裁で勝訴判決。「優生手術は違憲・違法」「多大な精神的肉体的損害を与えた国の責任は重大」との裁判長の所感が出た。

最高裁が2024年に違憲・違法と認める

最高裁も無視できない状況に追い込まれ、2024年、最高裁判決で全面勝訴を勝ち取った。

ひまわりの仲間は、札幌、仙台、東京、大阪での裁判支援に通い続けた。ピープルファーストは「障害者である前に人間だ」に共感する当事者たちの運動。ひまわりは昨年の全国大会でその中心を担った。

マイクロアグレッションをテーマに

「差別と人権」研究集会で4人がトークセッション

9月6日の「差別と人権」研究集会で、「日常の中にある部落差別―マイクロアグレッション」をテーマに4人がトークセッション。関西大学教授の内田龍史さんが問題提起したあと、部落にかかわる有志グループ「BURAKU HERITAGE」（ブラクヘリテイジ）の上川多実さん、高岩智江さん、武田緑さんを交えて語り合った。

マイノリティに無理矢理カミングアウトさせない

上川さんは、親や地元、学校も部落問題に熱心。部落を誇ってほしい。差別に負けないでほしい、と言われ、プレッシャーを感じてきた、と話した。

武田さんは、正直、学校での人権教育はしんどかった。差別問題を細かく分けすぎるよりも、マイクロアグレッションが提起している社会構造をベースに学ぶことで、いろんな差別問題と結び付けられる。子どもの権利条約を学ぶべきだ、と話した。

高岩さんは、当事者に部落の歴史を知っていることを求めないでほしい。カミングアウトしづらい理由の一つに部落について質問されても答えられない。生まれ育っただけで専門家ではない。隠したいと思っている人にはそっとしておいてほしい。無理にカミングアウトさせないことだ、と話した。

マジョリティがもっと声を上げられる社会を！

武田さんもカミングアウトするのは本人の自由。昔は無理やり言わせる風潮だった。マイノリティの子どもに頑張らせすぎ。学校でも、マイノリティの子がいるから教室をこういうふうにするんじゃなくて、いてもいなくても大丈夫な環境にすることだ。

マイノリティ批判があったとき、それっておかしいよね、とマジョリティが言える環境が大切。マイクロアグレッションって自分もする。でも、なるべくしない。したときに気付ける自分でありたい、と語った。

内田さんは、マジョリティが当たり前だと思っていることがマイノリティにとっては差別になったり、マイクロアグレッションになる。人と人との関係の「居心地」の良さが気付けるかどうか。考え続けることではないか、とまとめた。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

戦火の子たちに学んだこと

西谷文和さんが天理の人権学習会で講演

天理市丹波市校区人推協主催の「人権学習会」が10月11日にあった。フリージャーナリストの西谷文和さんが「戦火の子どもたちに学んだこと―ガザ、ウクライナ、シリア、アフガンの今」をテーマに話をした＝写真。

西谷さんは中東戦争の歴史的経緯を説明し、昨年3月、イスラエルに入って取材した動画を流した。西エルサレムから旧市街へ入ると、角々に武装したイスラエル兵が監視しており、緊張感が伝わる。

旧市街は祈りを捧げる多くの人で溢れている。「自爆テロ」を警戒し、検問所が設けられている。若いアラブ人は追い返され、小競り合いが続く。街の中心部では、「ガザの人々も人間だ」のプラカードを掲げたイスラエルの人たちが抗議の声を上げている。

イスラエルのガザへの無差別攻撃を許すな！

この時点で、すでに3万人以上のガザの人が殺されていた。今では6万7千人以上が殺されている。

昨年10月にガザに入った時の映像では、空爆と地上戦で荒れ果てた街や、戦車砲で攻撃され、黒煙が上がっている様子が映し出された。地元テレビ局（アルジャジーラ）が閉鎖され、テレビ局や新聞社も潰され、都合の良いフエイクニュースが流されている。

最後に、なぜ戦争が起きるのかと問い、医師中村哲さん（ペシャワール会）の活動を紹介した。

奈良町北部で差別の様相を学ぶ

河合町人権講座で地域社会の忌避や排除を

「旧奈良町北部の史跡・文化財などを訪ね、差別（忌避・排除）の様相などを学ぶ」をテーマにしたフィールドワークが10月3日、現地であった＝**写真**。案内は奥本武裕・奈良大学教授。34人が参加した。全4回ある河合町人権講座のひとつとして実施された。

掃除役は中世以来、「キヨメ」の役割に起源

初宮神宮（鍋屋町）を歩き出し、奈良奉行所跡（現奈良女子大）へ。江戸時代には、近隣の2つの被差別部落から1人ずつが出て、掃除役を務めた。施設内に「エタ溜り」と称される施設が設けられた。掃除役は中世以来、「キヨメ」の役割に起源と考えられる。

眉間寺跡は佐保山南陵の南側と佐保川との間にあった律宗寺院だが、明治期に廃寺に。墓地には葬送を司る墓聖がいた。後に西方寺の三昧聖となった。

多門屋敷（多門町）は佐保川の北岸にあり、奉行所与力・同心の屋敷地で多門屋敷と呼ばれた辺りから、春日社一の鳥居を起点とする街道が佐保川を渡る地点に架けられた石橋を抜け、東之阪へ。

弊牛馬から皮・肉・膠などを生産していた

東之阪では、弊牛馬から皮・肉・膠などを生産していた。草場権が奈良市中・奈良市西部・大和郡山市東南部、京都の南山城に広がり、政治支配の枠組みとは別の原理で編成されていた。

現存する最古の「救癩」施設である北山十八間戸を見学。旧奈良監獄の横を通り、般若寺まで歩いた。

この日のフィールドワークは9月5日に事前学習（**写真**）で学んでいたことから、歴史的な話も興味深く、気づきと考えることが多くあった。　（NPO河合支局）

葛城川両側で町場を形成

県民歴史講座で御所の町屋をフィールドワーク

第2回県民歴史講座が10月7日にあった。「御所町周辺地域社会の社会的諸関係と生活・文化」をテーマに現地をフィールドワークした。

御所町は葛城川の西側、下街道に沿って町場が形成されたと考えられる（西御所）。1600（慶長5）年の桑山元晴の入部に伴って葛城川東側に陣屋と陣屋町が建設される（東御所）。以降、奈良盆地の南部の中心的な都市的集落として発展した。

食肉生産に関する法規制は1871年に始まる

御所駅近くを流れる柳田川傍に屠場跡（**写真**）が残る。日本の食肉生産に関する法規制は1871年の大蔵省通達「屠牛取り締方」に始まり、各都府県で屠畜や食肉の生産・販売に関する規制が定められる。

御所市域では1931年に町営屠畜場が設置される。1977年度の記録では年間250頭余の牛馬等を屠畜する。吉祥寺境内には牛馬の供養塔がある。

済生会御所病院は1937年に開院。誘致には大和同志会、水平社のメンバーが大きな役割を果たした（「大和同志会回顧録」）。1963年に現在地に移転。

真竜寺境内の墓地に今田丑松の碑が建つ

西御所の葛城川沿いにある真竜寺（**写真**）は浄土宗知恩院派。1689年の再建と伝わる。境内の墓地に今田丑松の碑がある。御所町の顔役となり、相撲や芝居興行の采配、地域紛争の調停や労働者の口入れなどを行った。

国粋会大和支部の責任者で1923年の「水国争闘」で調停役を務めた。西光万吉、阪本清一郎、米田富らとも親しく、創立期の水平社を支援したとされる。

探索して大和同志会、水平社の残像が浮かんだ。

「ハンサラン」で研修・交流

ひまわりの職員3人が韓国を訪問

ひまわりの職員3人が、9月1日から10日まで、ピープルファーストの活動を通じて繋がりのある韓国の社会福祉法人ハンサランへ研修に行きました。主にハンサランの施設を訪問し、サービスの内容やその背景にある思いを伺い、当事者の方々と交流する時間を持ちました。　（**写真**はハンサランのスタッフみなさんたち）

2018年に、ハンサランの職員の方がひまわりに約1週間、研修に来られました。それに続けてひまわりの職員が研修に行く予定でしたが、コロナの影響もあり、実現が難しい状況が続いていましたが、この度、研修が実現しました。

地域に広がる深い絆と助け合い

社会福祉法人ハンサランは「一緒にしていく、いつも一緒に」という理念をもとに、最初は障害のある子どもの教育支援を行い、地域で図書館を作り、地域の人たちの集う場所として広がり、定着していきました。

現在は障害者を対象に保育、デイケア、自立支援、住居、社会サービスの5つの事業を運営しています。

研修で一番重要だと感じたことは「人とのつながり」です。研修中には、地域の人々、当事者同士、支援者同士、そして当事者と支援者の間にまで深い絆と助け合いを感じる場面が多くあり、温かい雰囲気を感じました。大邱市内にある「安心村」という地域には、地域住民と協同組合をつくり、経営する農作物などの直売所（**写真**）がありました。

温かな共に生き合う関係の広がりを

私はSNSを使うのですが、社会で弱い立場にある人を叩く差別主義的な投稿や文章などを目にします。そのような投稿をする背景の1つとして「人とのつながりが薄くなっている」のではないかと考えています。

人とのつながりが希薄になることにより、自分とは関係のない人になり、お互いに支えあうシステムが崩れ、排他的、差別的な考えになると思います。

人は弱い生き物なので、1人では生きていくことができません。お互いに支えあい、助け合うには「人とのつながり」が必要不可欠です。

今後は、ハンサランで学んだことを活かして、より積極的に地域や社会に関わり、「人とのつながり」を広げ、温かな雰囲気がある共生社会を実現していきたいと思います。　　**（和田理人・ひまわりの家支援員）**

編集後記　☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆

子ども食堂が全国に1万超箇所もある。それだけ、子どもの貧困が深刻だということ。先日、自民党の総裁候補者が子ども食堂に乗り込み、食事をしたうえにバースデーケーキまで振る舞わせて有頂天だった。同行の議員も「皆さん、食べに行ってもいいんです」とSNSに投稿。これらの恥知らずな言動に批判が殺到した。何とこの二人。このあと、内閣と党の要職に就いた。親の所得格差が子どもの教育格差に大きく影響している。子どもたちの多くは将来への夢も抱きづらい状況だ。子ども食堂の根底にある貧困は悪化の一途。社会は「貧困」状態に慣れてしまっている。メディアも本質への追及が弱い。子ども食堂の増加は政治のなせる業だ。正に政治の貧困を現している。

ニュースレター「人権なら」
発行：NPO法人なら人権情報センター
〒636-0223
奈良県磯城郡田原本町鍵301－1
TEL:0744-33-8585／FAX:0744-32-8833
E-mail：info@nponara.or.jp
http：//www.nponara.or.jp/